

高等部 第2学年2グループ 国語科 学習指導案

日 時：令和6年12月6日（金）11：15～12：05

場 所：高等部校舎 学習室2

指導者：谷藤 弘美

1 単元名 「群読しよう」

2 目標

(1) 詩の内容を理解し、発声や発音に気を付け、声の大きさを調節して音読する。 知 技

(2) 詩の内容に合わせて表現方法を工夫し、友達と声を合わせて群読する。 思判表

(3) 群読を通して言葉がもつよさに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとする。 学 人

3 生徒と単元について

(1) 生徒観

男子2名、女子1名のグループである。高等部から入学した2名は、代表として人前で話をする経験が少なく、改まった場面での発表に苦手意識がある。しかし、3人とも人に聞こえるように文を読んだり、話したり、会話をしたりして、日常的なコミュニケーションをとることができる。本グループの国語の学習では、道筋を立てて考える力や感じたり、想像したりする力を養うことが大切だと考える。集団だからできる学習活動をとおして、日常生活や社会生活における人との関わりの中で自分の思いや考えをもち、伝え合う力を高め、言葉で伝えることに自信をもってほしいと考える。

(2) 単元観

本単元では、特別支援学校学習指導要領（中学部）国語科、2段階〔知識、技能〕ア（イ）、〔思考力、判断力、表現力〕A聞くこと・話すこと、エ にあたる内容を学ぶ。群読の学習をとおし、発音の仕方や声の大きさを調節すること、他者を意識して話すことができるようになる。また、詩の内容を解釈することで、情景や場面の様子、語句の意味や事柄の順序を学ぶことができる。そして、作者や自分たちの思いを表現するための群読の仕方を考え、表現することで、言葉のもつリズムや一人ではできない楽しさを味わい、自己表現する力やコミュニケーションをとることへの自信につなげたいと考える。これらの学習を通して、美しい日本語の詩に触れ、日本語のもつよさに気付き、言葉で自分の思いや考えを伝えることの大切さを感じる機会にしたいと考え、本単元を設定した。

(3) 指導観

- ・ 詩の内容や世界観を解釈することができるように、最初に写真や絵などを提示する。
- ・ 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すことができるように、発声練習を取り入れたり、符号を用いて発音の仕方や発声の強弱を示したりする。
- ・ 単元をとおして、群読譜のワークシートを用いる。
- ・ 詩の内容に合わせて表現方法を工夫できるように群読の方法（一人読み、全員読み、声の重ね方、繰り返し、強弱の付け方等）を伝え、試す場面を設定する。その際に客観的に比べることができるよう群読の様子を撮影し、視聴する機会を設ける。
- ・ 詩の言葉がもつよさを他者に伝えることができるよう、練習を重ね、自分たちが考えた群読を発表する機会を設定する。また、群読を聞いた生徒から感想を述べてもらう場面を設定する。

4 指導計画（総時数 8 時間）

「小単元名」（時数） 小単元の目標	主な学習活動	観 点			評価規準
		知 技	思 判 表	態 度	
「群読に挑戦しよう ～かぼちゃのつるが～」 （2 時間） ・群読府の見方が分かり、 発声や発音の仕方を意 識して群読する。 【中 2 段階[知技]ア（イ）】	・全員での音読 ・回し読み ・群読譜の読み方 ・発声練習	○ ○	○	○	・適切な発声や発音で詩を読んでいる。 ・群読譜の読み方が分かる。 ・友達同士で声を合わせて読もうとして いる。
「読み方を考えて群読しよう ～自分のことばで～」 （4 時間）※本時 3 / 4 ・詩の内容を解釈し、群読 の方法を考える。 【中 2 段階[思判表]A エ】	・全員での音読 ・回し読み ・群読方法の工夫 （全員読み、一人読み、繰 り返し） ・群読譜の作成 ・群読の練習	○	○ ○ ○	○	・詩の内容を読み取り、感想を伝えて いる。 ・大事にしたい部分を強調するために 効果的だと思う読み方を、提示した 群読方法の中から選んでいる。 ・全員で話し合っ、群読譜を作成し ようとしている。 ・群読譜を見て、自分の担当する部分 を適切に音読している。
「群読を発表しよう」 （2 時間） ・役割やより細かい表現方 法を決める活動をとお して、言葉がもつよさに 気付き、そのよさを伝え ようとする。 【中 2 段階〔学・人〕】	・役割分担 ・発表練習 （抑揚や強弱の付け方、間 の取り方） ・振り返り ※学部集会で発表する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○	・詩の内容がより伝わる表現になるよ うに役割を分担している。 ・声の強弱や速さ、間など、群読を聞 く人を意識して練習をしている。 ・友達と声を出すタイミングを合わせ て群読している。

5 本時の計画（5 / 8 時間）

（1）本時の目標

- ・詩「自分のことばで」の後半部分の群読の仕方を考え、声を合わせて群読する。【思判表】

【中 2 段階〔思判表〕A エ】

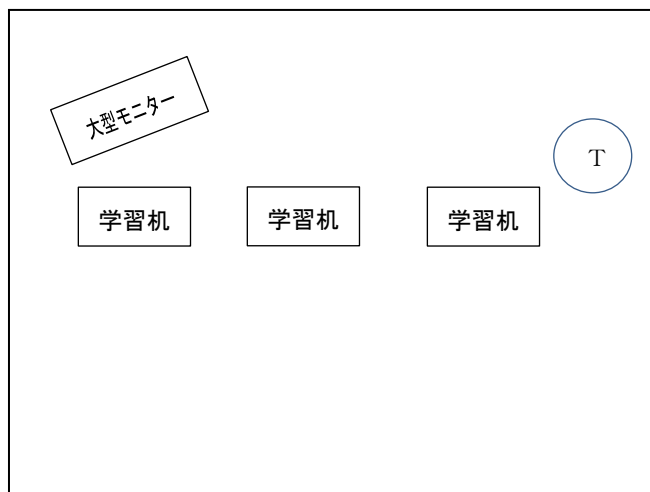
（2）個別の目標（評価：A 達成できた B おおむね達成できた C もう少しで達成できる）

生徒名	本時の主たる目標（期待する具体的な学びの姿）	評価
A	・選択肢から読み方を選んでその理由を述べたり、友達と声を合わせて群読したりする。	
B	・友達が選んだ群読方法について感想を伝えたり、みんなで考えた読み方で群読したりする。	
C	・大事にしたい言葉を強調するために、表現方法を考えて意見を出し、友達と声を合わせて群読する。	

(3) 展開

分	学習活動	本時の指導上の留意点	準備物
10	1 発声練習をする。 2 前時を振り返り、本時の学習内容と課題を確認する。	- はっきり話すことができるように、口の開け方や発声の仕方の見本を示す。 - 前時に作った群読譜を踏まえ、課題を自分たちで考えることができるように、一部分を空欄にして黒板に提示する。	大型モニター
〈課題〉作者や自分たちの <u>思いが伝わる</u> 群読にするには、どう表現したらよいか。			
30	3 詩の後半部分の群読の仕方を考え、群読譜を作る。 ①分担して表現方法を考える。 (個) ②意見を出し合ってまとめる。 (全) 4 作った群読譜で群読する。 ・役割を変えながら練習する。	- 作者の思いが強く表れていると生徒が感じた部分をキーワードにする。キーワードを強調する方法を考えられるように、ヒントカード(全員、一人、繰り返し等)を黒板に貼る。 - 分担した部分の群読方法を繰り返し考えられるように、ロイロノートに群読譜のワークシートを準備する。 - それぞれが考えた群読譜を共有して意見が出せるように、大型モニターに示す。 - 群読のイメージを膨らませることができるように、何回か群読の担当を変えて群読し、最後の練習の様子を撮影する。	ヒントカード タブレット ワークシート
10	5 まとめと振り返りをする。	- 一斉読みといろいろな方法を取り入れた群読の違いを見比べられるように、動画を順番にモニターに提示する。 - よいと思ったところはどこか、思いを伝えるために工夫したところはどこかを質問する。	
〈まとめ〉作者や自分たちの思いが伝わるように〇〇〇〇をした。			

(4) 配置図や教材



教材 1 (群読譜のワークシート)

					いっぽうで			自分の	①
					いっぽうで			自分の	②
					いっぽうで	自分の			③
					いっぽうで	自分の			④

教材 2（本時で取り上げる詩）

自分のことば 小森香子

自分のことばで叫んでみよう
自分の心を自分の思いを
自分のことばで

けんかも遊びもなまづくりも
ちいさないのちをいつくしむことも
歌もおどろも一つの仕事も
みんな自分の意志と責任

どこかでつくられた道を
知らぬ間に歩かされるのではなく
自分の足で大地に立ち
考えてみよう
自分のことばで

それは生きていくあかし
人間らしく生きてゆくための
かけがえない あかしのだから

【出典：『生きるとは 小森香子詩集』、詩人会議出版、2008 年】

(5) 評価規準

- ・ 群読譜を考える際に、どのような表現方法がよいか、発言することができたか。
- ・ 自分たちで作った群読譜を見て、友達と声を合わせて群読をすることができたか。